

# 心ひとつに

弥富市立桜小学校  
学校だより  
No.3  
平成26年4月28日

## 人をつなぐあいさつ

「あいさつ」は、人と人とを結びつける大切な言葉です。桜小学校には、気持ちの良いあいさつをしてくれる子がたくさんいます。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」と、目と目を合わせてあいさつしてくれると、それだけでいい気持ちになります。

この前、卒業した中1の子が、朝、自転車で弥富中学校に向かう途中、「**行ってきます**」と、さわやかなあいさつをしてくれました。そのとき、心がほわっと温かくなりました。

「あいさつ」の「あ」は、「あかるく」の「あ」です。する方もされる方も心が明るくなるからです。「い」は、「いつも」の「い」です。いつもあいさつをするから親しみが生まれるのです。そうすると、自然にあいさつする相手のことを大切にしようとする気持ちが出てきます。「さ」は、「さきに」の「さ」です。相手にあいさつされたからお返しにするのではなく、こちらから先にしようということです。出会った相手が先にしてくれるとうれしい気持ちになります。

そして、「つ」は、「**つたえよう心**」の「つ」です。例えば、「おはようございます」とあいさつするとき、「今日もいい一日にしようね」「今日も仲良くしようね」という気持ちが言葉に込められていて、それが相手に伝わると、心と心がつながりますね。「あいさつ」は、人と人、心と心をつなぐ言葉なのです。

みなさんも、「あかるく、いつも、さきに、つたえよう心」を合い言葉に、たくさんの人の心とつながってください。

## 全校朝礼の話より（4/28）

この写真を見て下さい。猫が笑っていますね。今日は「猫がわらった」というお話をします。

いっちゃんは先生から算数のテストを返してもらいました。全部○でしたが、惜しいことに一つだけ△がついていました。その一つの△を、いっちゃんは、お母さんや妹に見せるのがいやでした。だって△があるのがわかったら笑われそうです。

「そうだ、△を消して、○に書き直してやろう。」いっちゃんが、消しゴムで消そうとしたとき、コトリと、後ろで音がしました。驚いて振り向くと、いつの間にか、猫のたまが来ていました。青く光った目で、机の上の直しかけたテストを見ているような気がします。

猫なんかに分かるものかと、△を消そうとすると、たまの口の辺りがぴくぴくと動いて笑ったように見えました。いっちゃんは、急にはずかしくなって直すのをやめました。

では、このお話、みなさんと一緒に考えてみましょう。

この時、たまが笑ったように見えたのは、いっちゃんのどんな気持ちからだったのでしょうか？そうですね、「△を消すのは本当は悪いことなんだ」「うそをつくことはいけないことなんだ」「だれも見えていないからといって、悪いことをしてはいけないんだ」そんな気持ちをもっていただけからですね。みなさんも、今までにそんな気持ちになった経験はありませんか。例えば、「だれも見えていないから、いいや、ゴミをすててしまった」とか、「遊んだあと、だれも見えていないから、片付けなくてそのまま帰ってきた」とか、「誰も見ていなかったから、友達のを持ってきてしまった」

誰かが見ていようともいなくとも「よいことはよい。いけないことは、いけない」のです。

私たちの心の真ん中には、「良心（りょうしん）」という「素敵な心」があります。「絶対に悪いことをしない」という心です。誰にでもあります。

悪いことをしたり、うそをついたり、ごまかしたりして、そして、それがもし誰も気づかなかったとしても、そのことはずっと自分の心の中に痛みとして刺さるのです。ずっと自分の「良心」が痛むのです。